

「多極的な世界」に向けた 結束が演出された中露朝関係

66年ぶりに首脳が一堂に会した中露朝

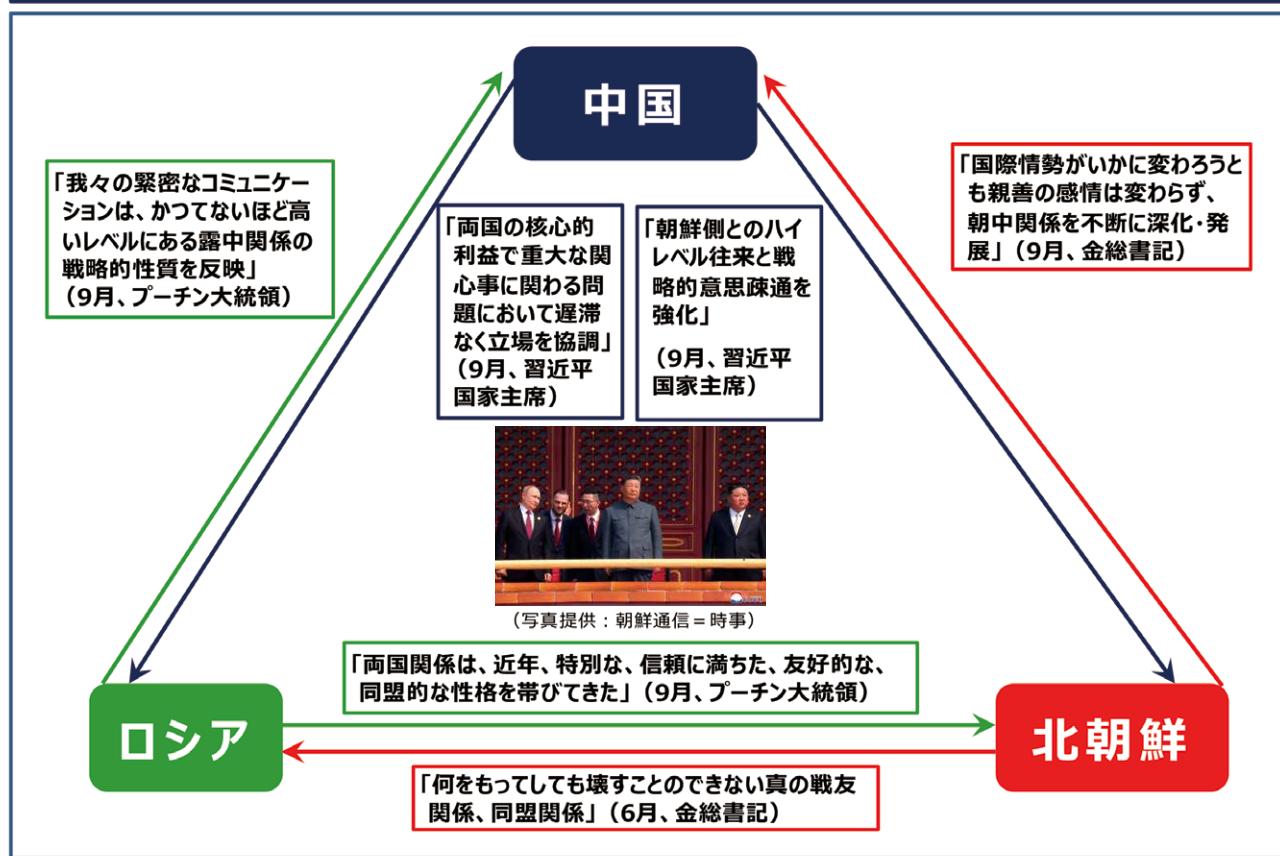
中国において、「中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年」記念大会が開催され（9月3日）、習近平国家主席を始め、ロシアや北朝鮮等26の国・地域の元首・首脳らが出席した。中露朝の首脳が一堂に会するのは、昭和34年（1959年）の中国建国10周年記念軍事パレード以来66年ぶりである。天安門楼上では、習国家主席の左右にプーチン大統領と金正恩総書記を配席したほか、三者が入場する際に談笑する様子を報じ、親密さを演じた。

同大会に先立ち中国で行われた上海協力機



会場に向かう習近平国家主席と外国の国家元首・首脳ら（写真提供：朝鮮通信＝時事）

中露朝の相関図



（各種報道に基づき当庁作成）

構（SCO）首脳会議（8月31日～9月1日）において、「国際システムは、より公正で公平、そして代表性を重視した多極的な世界へと深化した」などと暗に米国をけん制する文言を盛り込んだ「天津宣言」が採択された中での中露朝首脳の結束の演出は、三者が「多極的な世界」をリードするかのような印象を与えた。

中国にとっては、自国で開催された一連の行事を通じ、第二次世界大戦の「戦勝国」として国際秩序を擁護する立場であると誇示し、自らがグローバル・ガバナンスの再構築を主導していく意志を示す舞台となった。

ロシアにとっては、ウクライナ侵略を遂行する上で、主に経済面では中国、軍事面では北朝

鮮との協力を重視しているところ、中朝双方との蜜月関係を誇示し、自らの軍事的行動を正当化するとともに、多くの外国首脳と同席することにより、国際社会で孤立していないことをアピールする形になった。

北朝鮮は、金総書記が初の多国間外交の場において中露首脳と並んで行事に出席することで、「多極世界の建設」における主導的役割を内外にアピールし、日米韓の連携をけん制することを企図したとみられる。

結束が演出された中露朝は、各二者関係においても、その強化を図る動きが見られたところ、以下、その概況を振り返る。

中露関係

中露両国首脳は、第二次世界大戦終結80周年に当たり、両国で実施された関連行事に際し、相互に訪問して二国間会談を実施し、共に、グローバル・ガバナンスの変革を訴えた。

モスクワにおける対独戦勝記念式典（5月）の際の首脳会談において、中国の習^{しゅう}平^{きん}国家主席は、米国第一主義を掲げるトランプ政権を念頭に、「グローバル・サウスを団結させ、眞の多国間主義を堅持する」と述べ、自らの外交方針を改めて示した。また、ロシアのプーチン大統領は、「中露両国は、独立かつ自律的な外交政策を追求し、より公正で民主的な多極的な世界秩序の構築に関心を持っている」などと述べた。

また、北京市における「中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年」記念大会（9月）の際の中露首脳会談において、習国家主席は、「（中露）両国の核心的利益で重大な関心事に関わる問題において遅滞なく立場を協調させ、中露関係がより大きな発展を収めるよう推し進めたい」などと、引き続き二国間関係や国際社会での連携を強めていく意向を示し、プーチン大統領は、中

露両国が共に「戦勝国」であり、「当時も常に共にあり、今も共にある」などと、歴史の記憶の共有を強調して、中露連携を内外に誇示した。

中露両国は、ウクライナ侵略と対露制裁の影響にもかかわらず、多国間の会談やオンラインでの会談を含め、頻繁に首脳会談を行い、令和6年（2024年）の両国間貿易高が過去最高の約2,449億米ドルを記録するなど、両国の関係はこれまで以上に強固となっている。ロシア国内には過度な中国依存に対する潜在的な警戒感があるとの報道が見られるが、中露両国は多方面で利害が一致しており、この傾向は当面継続するものとみられる。

ウクライナ侵略開始以降も、両国首脳は頻繁に対面接触

日程	場所	首脳会談の枠組み
2022年	2月4日 9月15日	北京市 サマルカンド
		北京冬季オリンピック 上海協力機構首脳会合
2023年	3月21日 10月18日	モスクワ 北京市
		二国間交渉 第3回「一带一路」国際フォーラム
2024年	5月16日 7月3日 10月23日	北京市 アスタナ カザン
		二国間交渉 上海協力機構首脳会合
		BRICS首脳会合
2025年	5月9日 8月31日 9月3日	モスクワ 天津市 北京市
		二国間交渉+対独戦勝記念式典出席 上海協力機構首脳会合
		二国間交渉+対日戦勝記念式典出席

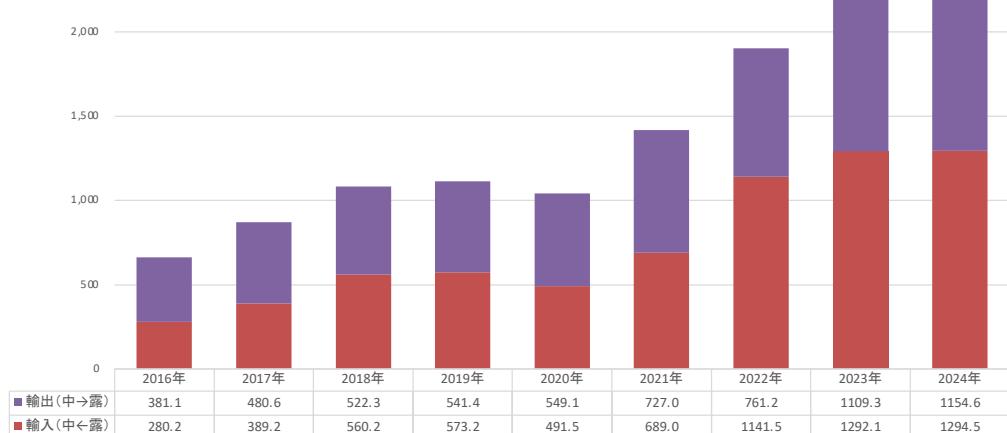
（各種報道に基づいて当庁作成）

このほか、中露両国は、朝鮮半島問題について、「北朝鮮に対する一方的な威圧的措置及び武力を背景にした圧力政策、並びに北東アジア

地域の軍事化と対立をあおる政策を放棄」するよう関係各国に求める（5月、中露共同声明）など、北朝鮮寄りの立場で足並みを揃えている。

中露貿易は急拡大。過去10年で双方の立場は輸出入で逆転

(単位:億米ドル)



2024年の貿易高総額は、過去最高の約2,449億米ドル

(中国税関統計に基づいて当庁作成)

中朝関係

中国は、習近平国家主席が、「中国人民抗日戦争・世界反ファシズム戦争勝利80周年」記念大会に出席した金正恩総書記と、令和元年（2019年）6月以来、約6年ぶりに会談を行い、「朝鮮側とのハイレベル往来と戦略的意思疎通を強化する」などと述べて中朝間の交流を深めていく意向を表明した（9月4日）。その後も、北朝鮮の「建国記念日」（9日）に際して、習国家主席が金総書記に祝電を送ったほか、張慶偉全国人民代表大会常務委員会副委員長が在中国北朝鮮大使館主催の祝賀レセプションに出席する（8日）など、友好ムードを演出した。

北朝鮮は、金総書記の訪中等を通じて、中朝関係の強化を図った。背景には、ウクライナ侵略の停戦に向けた動きが浮上する中で、ロシアから得られる経済的利益が減少する可能性も見据え、中国との経済的結び付きを強化する

必要性や、将来的な米朝交渉を視野に、中国の政治的後ろ盾を得る狙いがあるものとみられる（次ページ図「中朝首脳会談に至るまでの北朝鮮を取り巻く国際情勢」参照）。

ただし、中朝首脳会談に関する双方の報道内容を比較すると、北朝鮮が中国に対する警戒感や不満を抱いている可能性も考えられる（図「中朝首脳会談をめぐる報道内容の比較」参照）。中朝間においては、金総書記の訪中に続き、中国の総理としては16年ぶりとなる李強総理の訪朝（10月、朝鮮労働党創建80年）が行われるなど、関係強化が図られており、北朝鮮が中国に対する警戒感や不満を抱えているとしても、中朝双方は、対米外交に有利になるよう、今後も親善・友好関係の強化をアピールしていくものと考えられる。

中朝首脳会談に至るまでの北朝鮮を取り巻く国際情勢

月	日付	事件	備考
2月	18日	北朝鮮外務次官が王亞軍駐北朝鮮中国大使と会見 おうあぐん	▶ 中朝双方が、「中朝友好」を発展させていくと言及
4月	26日	トランプ大統領とゼレンスキーアジトランプ大統領が会談 トランプ大統領	▶ ゼレンスキーアジトランプ大統領が「無条件の完全停戦について議論」と投稿、トランプ大統領は、「良い会談だった」と評価
6月	11日	米朝水面下接触報道 キム・ジョンウン	▶ トランプ大統領が金正恩総書記宛ての書簡をニューヨークの北朝鮮国連代表部を通じて送ろうとしたものの、北朝鮮の外交官らが受取を拒否したと報道
7月	28日	キム・ヨジョン 金与正党副部長談話	▶ 「非核化」を否定した上で、「新たな思考に基づく他の接触の活路を模索すべき」として米朝対話の可能性を示唆
8月	12日	露朝首脳電話会談	▶ ロシア側によれば、米露首脳会談（15日）の情報を北朝鮮と共有。なお、北朝鮮が、金総書記と外国首脳の電話会談を公開したのは初めて
	15日	米露首脳会談	▶ プーチン大統領は、ウクライナ情勢をめぐって、「これを終わらせるに強い関心がある」と発言
9月	4日	中朝首脳会談（6年ぶり）	▶ 金総書記が、「国際情勢がいかに変わろうとも、朝中関係を不斷に深化・発展させることは、党と政府の確固不動の意志」と言及

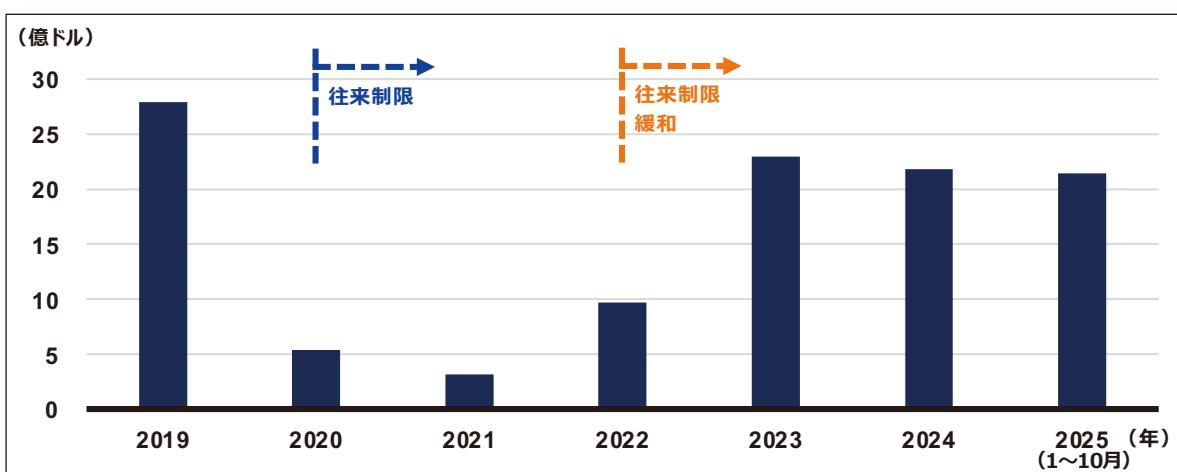


(写真提供：朝鮮通信＝時事)

(各種報道に基づき当庁作成)

中朝貿易額は、往来制限※緩和以降の回復傾向が一時鈍化も、2025年上半期は前年同期比3割増

※北朝鮮は、2020年以降、新型コロナウイルス感染症対策として外国との往来を制限するも、2022年下半期以降、段階的に緩和



(中国税関統計に基づいて当庁作成)

中朝首脳会談をめぐる報道内容の比較

※ 中朝双方の報道機関が報じた金正恩総書記の発言内容を比較し、その差異から見られる特徴点を付したもの

	北朝鮮側（労働新聞）	中国側（新華社）	特徴点
中朝 関係	国際情勢がいかに変わろうとも、朝中間の親善の感情は変わりえず、朝中関係を不斷に深化・発展させることは、党と政府の確固不動の意志である	国際情勢がいかに変化しようと、朝中間の友好的感情が変わることはなく、朝中関係を絶えず深化させ、発展させることは、朝鮮側の搖るぎない願いである	特段の差異なし。双方とも、対米関係・露朝関係等の変化を意識しつつ、友好関係を強調
外交 政策に 関する 双方の 説明	対外分野で両国の党と政府が堅持している 自主的政策的立場 (※)について相互に通報した ※ 北朝鮮は、かつて論評で核保有を「自主的な権利」と言及。北朝鮮の「自主的な政策的立場」は、核保有に関する立場を表現した可能性	(報道なし)	北朝鮮は、「核武力強化」を含めた対米方針や統一を放棄した対韓政策などを説明か 中国は、過去の首脳会談で言及した「非核化」について明らかにせず。北朝鮮への配慮を示した可能性
対北 支援	(報道なし)	(朝鮮側は) 中国側が長期にわたって朝鮮の社会主义事業を確固不動に支持し、貴重な支持と 支援を与えていることに感謝 する。両国の互恵的な 経済・貿易協力を深化させ、より多くの成果を収めたい	北朝鮮が支援や経済・貿易協力について言及を避けた背景には、北朝鮮経済の過度な中国依存に対する警戒感を反映した可能性
国際・ 地域 問題 等に おける 相互 協力	朝中最高領導者は、国際及び地域問題で戦略的協力を強化し、共同の利益を守護することに関して言及した	朝鮮側は、 朝鮮半島問題における中国側の公正な立場 を賞賛しており、 国連などの多国間プラットフォームで協調を引き続き強化 し、双方の共通で根本的な利益をしっかり擁護したい	北朝鮮は、中国の立場に言及せず。中国が「朝鮮半島非核化」を堅持しているものと認識し、不満を反映した可能性

(各種報道に基づき当庁作成)

露朝関係

ロシアは、令和6年（2024年）に引き続いで、「包括的戦略的パートナーシップ条約」に基づき、北朝鮮との協力関係を維持し、露朝関係を「特別な、信頼に満ちた、友好的な、同盟的な性格を帯びた」（9月、露朝首脳会談でのプーチン大統領の発言）と評価した。

北朝鮮は、ロシアとの経済協力を進めるとともに、ウクライナ侵略の停戦に向けた動きが浮上する中、ロシアとの活発な高官往来・接触を通じ、「長期的な協力」に再三、言及するなど協力関係の長期化を図る思惑をうかがわせた（下図、次ページ図「露朝間の政治・経済交流」参照）。

軍事面では、4月以降、ロシアへの兵士派遣の事実を公表した上で更なる軍事支援の可能性を示唆した。また、ロシア・クルスク州における地雷除去と復興のための人員約6,000人の追加派遣に合意したと発表した。朝鮮労働党創建80年（10月）に際しての軍事パレードでは、

北朝鮮旗とロシア国旗を掲げた「海外作戦部隊」が行進したところ、北朝鮮の軍事パレードで外国の旗が掲げられることは極めて異例であり、緊密な軍事協力関係を象徴するものとなった。

北朝鮮は、軍事支援の見返りとして、ロシアから無人機や地対空ミサイル等様々な軍事技術及び装備の提供を受けていると指摘されており、露朝の軍事協力は、北朝鮮の現代戦への対応能力を向上し得るものとなっている（次ページ図「露朝間の軍事協力」参照）。

露朝双方は、ウクライナ侵略が継続する限り、ロシアとしては人員や弾薬不足を補うため、北朝鮮としては軍事能力向上のため、軍事協力を進めていくものと考えられる。また、北朝鮮は、「長期的な協力関係」を強調し、ウクライナ侵略終結後の軍事協力の継続を視野に入れていることがうかがえる。

金正恩総書記とロシア要人との会談における協議内容

2025年

3月 ショイグ安保会議
書記と会談 6月 リュビモフ
文化相と会談 9月 プーチン大統領と
会談 10月 メドベージエフ「統一ロシア」
議長と会談

「両者は、安全分野を含む多方面的な分野の交流と協力を拡大・強化していくための長期的な事業について談話を交わした」

「金総書記は、文化分野における交流・協力に関する長期的な計画について意見を交わした」

「朝露国家首班は、朝露間の長期的な協力計画について詳しく討議し、確固不動の意志をいま一度確認した」

「談話では、朝鮮労働党と統一ロシア党間の接觸・協力を一層活性化するための長期計画が討議された」

※ いずれも北朝鮮報道から抜粋

2025年に入り、「長期的な協力」への言及が目立ち、9月の「詳しく討議」は、3月の「談話」や6月の「意見交換」より踏み込んだ表現であり、「長期的な協力関係」構築を図る北朝鮮の思惑がうかがわれる

※ ロシア側発表では、「長期的な協力」に関する明確な言及は見られないものの、ペスコフ大統領府報道官は、「緊密な二国間関係を、今後も継続する」旨発言（9月）

露朝間の政治・経済交流

特集

経済安保

サイバー

国外情勢

1

2

3

4

国内情勢

1

2

3

4

高官往来・接触を活発に実施



- 首脳会談:8月に電話会談、9月に両首脳が訪中した際に実施(3年連続)
- 高官往来:露朝間で40件、うち8件が金総書記と会談。金総書記との会談は、2024年比で3回増加(※)
※ 2025年10月末時点



トウマンガン 豆満江国境自動車橋建設着工



- 2024年6月、プーチン大統領が訪朝した際、建設に合意
- 2026年完成予定。露朝緊密化を象徴するインフラ建設



モスクワ-平壤旅客列車・直行航空便の運航再開

- 列車は約5年ぶり、航空便は約30年ぶりの再開

ウォンサンカルマ

元山葛麻海岸観光地区へのロシア人観光客受入れ

- 同観光地区への外国人観光客の受け入れはロシアが初

ロシア

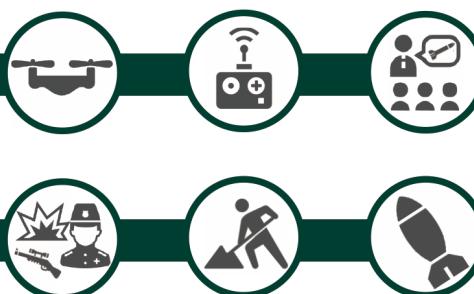
北朝鮮

露朝間の軍事協力

- △ 無人機及びその操縦方法・戦術 △ 電子戦装備
- △ SA-22地対空ミサイル △ 偵察衛星及び発射体技術諮詢 等

ロシア

北朝鮮



- △ 北朝鮮軍約1万5,000人派兵、戦災地復旧要員約6,000人派遣
- △ 2023年8月～2025年3月の間、122mm砲弾、152mm砲弾、122mmロケット弾を含む約420～580万発の砲弾提供 等

(各種報道に基づき当庁作成)